



higashiyamato no  
ひがしやまとの



こくさい こうりゅう  
kokusai koryuu



編集・発行 東大和市 市民部 地域振興課 市民協働係  
東大和市中心3丁目930番地  
電話： 042-563-2111 (内線 1711・1716)  
e-mail: chiikisinko@city.higashiyamato.lg.jp

## 「アルゼンチン通信」

### ～JICA ボランティアからの活動報告～

#### Vol.3 2018年9月発行

みなさんこんにちは！日系社会青年ボランティア曾根友美です。アルゼンチンの首都ブエノスアイレスから日本との文化の違いや日系社会について紹介します。お正月に、世界的に有名なイグアスの滝へ旅行してきました。南半球なので、1～2月は夏のバカンスの季節、観光シーズンです。

想像を超えるスケールで、素晴らしい景色です！滝には、晴れていればいつも虹がかかっています。日本からは遠いですが、見に行く価値があります。滝はブラジルとアルゼンチンの国境にあり、両国それぞれの国立公園となっています。



## 私のボランティア活動の様子

私は、在亜日系団体連合会(FANA)に所属し、ソーシャルワーカーとして、高齢者福祉の向上や日系子弟への福祉に関する普及啓発を目的に活動しています。活動としては、各日系団体の敬老会や、老人クラブ、高齢者のお楽しみ会などを訪問し、介護予防の体操やレクリエーションを行っています。もう一人の日系社会シニア・ボランティアと分担して、私は月に6か所、定期的な高齢者の集まりを訪問し、日系人のための高齢者住宅(日本の福祉サービスとは違いますが、小さな軽費老人ホームのような感じ)には週1回訪問しています。

そのうちのひとつがFANA お楽しみ会です。毎月第4土曜日に、アルゼンチン日本語教育連合会の建物を借りて行っています。10名程度の日系のボランティアさんたちが昼食やおやつ、カラオケなどを用意します。約40名の参加者が食事代を払って参加しています。社会福祉協議会の地域交流会に似ています。

日系1世の高齢者の方々は、日本語でおしゃべりをして、日本の歌を歌い、和食を食べられる集まりをとて楽しみにされています。家庭では、子どもや孫の会話はスペイン語だからです(子どもや孫も日本語を勉強しますが、スペイン語が母語になります)。お楽しみ会には、元気な方は、バスや電車で参加されます。歩くのが大変な方は、タクシーか、子どもの車で送迎をしてもらって参加しています。

JICA ボランティアは、介護予防体操や、会の司会をお手伝いします。現在の課題は、ボランティアさんの高齢化です。昼食を作ったり、食器洗いをするのが大変になってきているそうですが、参加者から楽しみにしているので続けてほしいとの声があり、15年以上続けています。



←FANA お楽しみ会  
昼食の前に体操をします。  
この日は年に一度の  
すき焼きでした。  
美味しかったです。

FANA お楽しみ会のボランティアさん方→  
うどんを作っている様子です。  
だしから手作りなので、とてもおいしい。  
揚げたての天ぷらもつきます。



## アルゼンチンへの移住の歴史

### 1、戦前の移住者たち

アルゼンチンには 20 世紀初頭頃から、徐々に日本人が住み始めました。当時は少数の方が自主的に移住したり、初めは中南米のほかの国へ移住した方が、より暮らしやすい環境を求めてアルゼンチンへ移り住んできたりしたようです。そしてスペイン語が十分わからなくてもできる、洗濯屋や切り花の栽培、喫茶店、女中、鉄道工事や運動靴の工場などの仕事をしていました。この頃、日本人のまじめで丁寧な働きぶりが知られるようになり、アルゼンチン国民は概して日本に対して好意的であると言われているようです。

現在 90 歳代の方でも、「日系 2 世(生まれはアルゼンチン、両親は日本人)」という方がいます。移住者たちは、子どもに日本語や日本文化を教えるため、学校を作り、学校単位でコミュニティを形成してきました。また、同郷の人で集まって交流をしていて、県人会などがあります。そのため、高齢者のための活動も各日本人会ごとに行われており、私はバスや電車で各団体を訪問しているのです。

### 2、戦後の移住と JICA

戦後の日本は就職難で、日本人の海外移住を推進する政策がとられました。そのため、1950 年代、1960 年代には日本から政府の海外移住事業に応募して、アルゼンチンへ移住した人がたくさんいます。それらの事業を行うために、日本海外協会連合会や日本海外移住振興株式会社という組織が作られました。これらの団体は現在の JICA の前身にあたります。そのため、現在も JICA では日系社会のためのボランティア事業等が行われているのです。

政府の海外移住事業でアルゼンチンへ来た方々の多くは、移住地で畑を作り、農業を主な仕事としてきました。移住当時の様子について、「自分の土地として用意されたのは家も何もないジャングルだった」「移住した家族で協力して、苦労して土地を開墾した」「少しづつ畑を作り、野菜を馬に載せて市場に持っていった」などのお話を聞きました。

しかし、現在では農業だけでなく、商店を営む方、海外貿易の会社で働く方、アルゼンチンに進出している日本企業で働く方、医師に、指圧のマッサージ師など様々な職業の方がいます。アルゼンチン人と結婚している方も多くいます。各日本人会の役員さん方も 2 世以降が中心に移りつつあります。



←4 月に行われた、記念パレード  
着物や浴衣姿で、来る 2020 年の東京オリンピックへ向けて、「東京五輪音頭 2020」を踊りました。他にも、剣道、柔道、空手道などの関係者のパレードで大変賑わいました。



FANA でのコンテストを経て決定された 120 周年記念のロゴ。↑  
今年、日亜修好通商航海条約 120 周年の記念すべき年です。



## 広報活動の取り組み

アルゼンチンの日系社会の特徴と課題として、各団体ごとに別々の取り組みをしていて、お互いの活動の共有が少ないことがあげられます。住んでいる地域もばらばらで、日系の団体の数は、100 団体ほどあると言われています(メンバーが重複しているものを含めます。例、沖縄県人会連合会と中城村人会、両方に加入する人もいます)。ですから、みんな一つのことに取り組むのはそう簡単ではありません。

活動中、何人かから「高齢者福祉がもっと充実するといい。日本語と日本食で暮らせて、庶民も入れる老人ホームが必要ではないか」という意見を聞きますが、残念ながら現状としては実現していません。以前は、私の働いている FANA で老人ホームを運営していましたが、維持費の問題等があって現在はなくなってしまいました。そのうえ、現在アルゼンチンには日系の高齢者がどの程度の人数いらっしゃるのか、正確な情報がなく、実際に老人ホームを必要とする高齢者が、何処にどの程度いらっしゃるのかもわかりません。(過去の JICA ボランティアがアンケート調査を行っていますが、私の把握したい内容すべてを知ることはできませんでした。当時のボランティアも十分なデータを集めるのに苦労されたように推察されます。)

しかし、私が訪問していくと各団体の中ではみなさんそれぞれ創意工夫した取り組みをされていました。活動内容も、日本食にこだわるところ、盆踊りを踊るところ、カラオケが好きなグループ、体操だけするグループと様々です。そして、みなさん、ほかのグループが何をしているかにも興味はあるようです。

そこで、今すぐ始められる取り組みとして、JICA ボランティアが巡回して把握した各団体の取り組みを、広報誌を作って情報提供していくこととしました。「FANA ふくし通信」と題し、日本語とスペイン語でお楽しみ会の写真や活動内容を紹介しました。配属先は予算が限られているため、印刷費用を減らす工夫として、可能な方にはメールでデータをお送りしています。シニアボランティアさんが発案の健康レシピ・栄養情報も好評です(協力してくださった JICA ボランティア料理隊員さん、私の日本の職場の栄養士さん方、ありがとうございます)。これから発行部数を増やすなど皆さんに届ける工夫を考えていきます。

広報誌を作ってみると、ほかにも良い効果がありました。第 1 号に掲載した自己紹介は、初めて訪問した

した場所で配ると私たちが覚えてもらうきっかけになりました。そして忙しくて私たちの活動を見る機会のない配属先の理事さん方にも、活動の様子を知らせるツールとなりました。

## アルゼンチン日系社会のごはん

↓ 海苔巻き、押し寿司、ゴーヤの天ぷら



↓ サラダと、カレーライス



↑ 沖縄風のうどん

(豚肉、かまぼこ、天ぷら、錦糸卵、紅しょうが)

↑ お茶の時間

サンドイッチ、ビスケット、お餅風のお菓子、たくわん

私がアルゼンチンに出発するとき、「日本の食事が恋しくなるでしょう」と、お饞別にいろいろな日本の食べ物をいただきました(みなさんありがとう！おいしくいただきました)。ですが、実は今、私はブエノスアイレスで、いろいろな日本食を味わっています。

移民一世の人たちは、大きな船で 45～60 日間、世界を半周してアルゼンチンへたどり着きました。移住当初は、今のように流通も良くなかったので、和食を食べるために、いろいろなものを手作りしていました。お豆腐やお味噌、梅干しや納豆、こんにゃくにおまんじゅうなど。なので、アルゼンチンの日系社会にはお料理上手な方がたくさんいます。

そして現在では、日本食材専門店や中華街でいろいろな日本の食べ物を手に入れることもできます。輸入品なのでお値段は高くなりますが、カップラーメンやふりかけ、カレールーなどもあります。さらに、アルゼンチンの人たちも、健康的な日本の食事に大変興味を持っています。街にはカリフォルニア巻き風のすしレストランがたくさんあり、日系人が開催するお祭りにはアルゼンチンの人たちがたくさん来て、お寿司を食べます！活動で訪問した日本人会では、美味しいお料理やお菓子をごちそうになることもあります。アルゼンチンの食事はとてもおいしいですが、やっぱり食べなれているご飯やお味噌汁を食べるとホッとします。



## Vamos!Argentina！（いけ！アルゼンチン！）～サッカーの世界カップ

6月にサッカーワールドカップロシア大会が行われましたね。ご存知のように、アルゼンチンはサッカーが盛んです。残念ながら、日本同様ベスト16という結果に終わりましたが、アルゼンチンのサポーターたちの様子を紹介します。大会直前まで特にお祭りムードもなく、ワールドカップの話もしていなかったのに、開会したとたんに、街にアルゼンチン国旗の飾りがあふれました。アルゼンチンの代表チームのことを、「アルビセレステ（白色＋水色）」と呼ぶそうです。日本代表を「サムライジャパン」と呼ぶような感じでしょうか。

特にサッカー好きな男性陣は、仕事を休める人は、家でビールとおつまみを用意して、試合の時間はテレビの前に張りつく！もしくはカフェで観戦！そして、残念ながら仕事があってゆっくり見られない人も、あきらめきれず、街頭のテレビの前に立ち止まって応援！していたようです。

↓公園のパブリックビューイング 対ナイジェリア戦



↓ハンバーガーショップもメッシの背番号入り



↑ 駅近くの国旗グッズ販売の outlet

↓ 立ち止まってカフェのテレビで試合観戦…



↑ アルゼンチンのハンバーガーチェーン MOSTAZA

ハンバーガーが大きいです。

大会中は、八百屋さんのお兄さん(ペルー人)に日本は健闘したね！と声を掛けられたり、スマホで試合の中継を見ているアパートの管理人さんと試合結果に一喜一憂したりして、サッカーのおかげで周りの人とのコミュニケーションがとれて楽しかったです。

派遣期間も残り半分を過ぎました。引き続き楽しく頑張ります！